

平成28年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

1 附属高等学校平野校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

(2) 所在地

大阪市平野区流町2-1-24

(3) 学級数・収容定員

9学級(1学年3学級) 収容定員360人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

361人(男子182人・女子179人)

(5) 教職員数

校長(併任)1, 校舎主任1, 副校長1, 主幹教諭1, 教諭20(うち任期付教諭1), 養護教諭1, 中学校併任教諭2, 非常勤講師11, ALT2, 事務職員3(専任1, 事務補佐員4), 用務員1

2 附属高等学校平野校舎の特徴

1学年3クラスの小規模校である特徴をいかし、自主自立の精神を基盤に生徒一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い学力の向上を目指している。平成27年度より、文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」に指定され、課題解決力等の育成を目指すカリキュラムとあわせて、グローバルリーダーに必要な資質能力の育成に取り組んでいる。

3 附属高等学校平野校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組むとともに、平野五校園の共同研究を進める。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担う。

4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

- (1) 学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
- (2) 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

- (1) 小規模校の特徴をいかしたきめ細かな教科指導の実践と生徒の学力の向上
- (2) SGHのカリキュラムによるグローバルリーダーに必要な課題解決力、コミュニケーション力等の育成
- (3) 3年間の進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成
- (4) 生徒会活動・学校行事等へ積極的な関与・協働をとおした協調性・創造性、自主・自立の精神の涵養
- (5) 平野地区他校園との連携による五校園共同研究の推進。教育実習の環境整備と指導充実
- (6) 学校安全への環境・体制づくりの推進と、保護者・地域との連携強化

6 附属高等学校平野校舎 平成28年度重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	(1)小規模校の特徴をいかしたきめ細かな教科指導の実践と生徒の学力の向上 (2)SGHのカリキュラムによるグローバル・リーダーに必要な課題解決力・コミュニケーション力・多文化理解力・セルフマネジメント力等の育成(総合的な学習の時間における課題研究の充実。 学校行事や海外研修、海外高校生等との交流等とおしたグローバル・リーダーとしての資質能力の育成。それらの評価方法の構築・改善) (3)3年間の進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成

年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (* 評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教科指導の 充実・学力 の向上	①授業の充実・改善・教科、教員間で 課題意識を共有し、充実・改善に向け た具体的方策に取り組む。 * 生徒による評価(1)「教員は生徒が意欲 的に取り組むよう授業の工夫をしている」 及び(2)「学校・教員は生徒の教育に熱心 に取り組む」の肯定的意見を上昇させる。 ②授業研究・授業実践・能動的学習 課題解決型学習に関する教員研修・ 授業実践 * (3) 生徒による評価「授業では自分の考 えをまとめたり発表したりする機会があ る」の肯定的意見を上昇させる。	①・学力向上のための授業改善策について、教 科で検討した取組を授業で実践した。 * (1)は昨年度比 13point、一昨年度比 19point 上昇 (2)は昨年度比 9point、一昨年度比 14point 上昇 ・46 期生の一部教育課程の見直しを行った。 ②昨年度に引き続き、解決力向上のため、大阪 教育大学教員による研修(3 回)や、QFT、4QS 等の指導法に関する研修(2 回)を実施した。研 修の成果は教科の授業で活用するほか、全国 の教員対象研修会も開催し成果を発信した。 * (3) 昨年度比 4point、一昨年度比 13point 上昇	①生徒の学習到達度目標をよ り明確にして、教科の取組を さらに充実させるとともに、評 価・改善する。英語について は G-TEC の受験により効果 測定を継続・評価する。 ②教員研修を継続する。また、 能動的学習、課題解決型学習 の導入を一層進めるととも に、その成果を評価する。	B	①個に応じた学習を進め るためにも、講習等の 充実が有効である。 ②・SGH の課題研究を中 心に、課題解決型学習 が充実し、成果が現れ ている。 ・能動的学習の指導法 を積極的に全国の教員 に発信するなど、成果 の普及にも努めた。	A	①学習到達度目標を具体化さ せ、教員間で共有する。ま た、生徒の変容・学力の伸 長の測定について計画的に 実施する。 ②教員研修と管理職による授 業観察を引き続き行う。
グローバ ル・リーダ ーの育成	SGH研究開発課題への取組 ①1、2年「総合的な学習の時間」にお ける課題研究	①当初計画に基づき、1、2年各 30 ほどのグル ープが研究に取り組み、成果をまとめた。研究 成果の発表会では、英語での発表も含め全グ	①生徒の研究内容の深化を図 るため、全グループへの指導 が充実できるよう、教員の指	A	①課題研究について、 研究方法や研究内容が 大変よくなった。	A	①課題研究の指導体制・指導 内容の充実を図り、生徒の 研究内容の質的向上に取り

	<p>② ①に資する「タイ研修旅行」「カンボジアフィールドワーク」「国内フィールドワーク」 * (3) タイ研修旅行の生徒満足度 80%以上</p> <p>③2年生の「即興型英語ディベート」</p> <p>④1年生「大阪教育大学留学生とのディスカッション」</p> <p>⑤グローバル人材育成に関わる評価方法の開発と改善</p>	<p>グループが発表、その発表内容・方法について参会者から高い評価を得た。</p> <p>②「タイ研修旅行」(2年全員対象)をとおして課題研究が深まった。* (3) 「有意義だった」96%</p> <p>「カンボジアフィールドワーク」(2年希望者対象)では、課題研究の成果を現地で発表あるいは普及させた。</p> <p>「世界津波の日・高校生サミット」「母子手帳国際会議」「パラメンタリーディベート世界交流大会」等へ生徒が参加し、成果を残した。</p> <p>③授業時の評価や生徒の自己評価によると、英語運用力が高まっている。</p> <p>④1年生が9カ国のべ11名の留学生と、各国の文化等をテーマに交流した。事前事後学習によって学習効果があがった。</p> <p>⑤大阪教育大学との協働体制が進み、当初予定以上の成果が得られた。</p>	<p>導体制・指導内容の一層の改善に取り組む。</p> <p>②「タイ研修旅行」では、来年度現地高校生との交流を実施する。「カンボジアフィールドワーク」では、研修内容をさらに充実させ、参加者の増加を図る。</p> <p>③④本年度と同様の実施方法を維持する。</p> <p>⑤大阪教育大学との協働を一層進め、次年度予定されているグループワークの指導法やグローバル人材育成に関する評価指標の作成を進める。</p>		<p>②タイ研修旅行で日本と異なる様々な経験をすることは意義深い。</p> <p>⑤評価方法については、他校のモデルとなる開発をしており、さらに成果を全国の高校に向けて発信するとよい。</p>	<p>組む。</p> <p>②「タイ研修旅行」「カンボジアフィールドワーク」は、本年度の取組をもとに、課題研究との関連性を深めて行う。</p> <p>③④ディベートのテーマを課題研究と関連付け、英語での討論力や発表力の向上を図る。</p> <p>⑤大阪教育大学との連携・協働を一層進めながら、研究開発及び成果の普及に努める。</p>
<p>進路指導の充実による高い志の醸成</p>	<p>進路研究部と学年との連携を強化し、ガイダンス機能を充実させる。</p>	<p>・1年「卒業生による職業ガイダンス」、2年「大阪大学訪問」を計画どおり実施した。</p> <p>・3年においては9回の生徒対象ガイダンス、4回の保護者対象ガイダンスを実施した。</p> <p>進路冊子の内容について見直しを行った。</p>	<p>・校外模試等の活用方法を見直す。</p>	<p>B</p>	<p>・教育課程が変わる46期生へのガイダンス、保護者対象のガイダンスの内容の見直しが必要である。</p>	<p>A</p> <p>・生徒及び保護者へ提供する情報をさらに充実させ、また早期化する。</p> <p>・46期生2年からの教科選択(文理選択)にあたり、ガイダンス内容の再検討を行う。</p>

<p>学校教育目標</p>	<p>学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成</p>
<p>学校教育計画</p>	<p>(4) 自主自立の精神の涵養・生徒会活動・学校行事等への積極的な関与・協働をとおした協働性・創造性、自主・自立の精神の涵養</p>

<p>自主自立の精神の涵養</p>	<p>学校行事等をとおして生徒の主体性、創造性が発揮できるよう指導・支援を行う。* (3) 生徒による評価「学校は生徒の自主性を大切にしている」の肯定的意見を上昇させる。</p>	<p>学校行事は円滑に実施された。生徒指導部が中心となり、生徒間の引き継ぎも進んだ。</p> <p>* (3)は昨年度比4point 上昇した。</p>	<p>生徒会・各委員会等の一層の活性化を全教職員がサポートする。* (3)の評価をさらに上げる。</p>	<p>A</p>	<p>特になし</p>	<p>A</p> <p>生徒指導部を中心として、生徒の自主性を一層伸張させるよう取り組む。</p>
-------------------	---	--	--	----------	-------------	---

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成						
学校教育計画	(5)平野地区他校園との連携による五校園共同研究の推進。教育実習の環境整備と指導充実 (6)学校安全への環境・体制づくりの推進と、保護者・地域との連携強化						
平野五校園共同研究の推進	平野地区五校園共同研究の推進、 研究発表会における成果発表	・これまでの共同研究をさらに発展させるため、 五校園連携のもとで育成する資質能力について検討が深かった。 ・課題解決力の育成を中心とした高校と附属平野中学校の総合学習との連携が進んだ。	・来年度も五校園の連携を強めながら研究を深める。 ・附属平野中学校との中高カリキュラムの連携についての検討を推進する。	A	中高の連携を推進することで附属校としての様々な研究が可能となる。	A	・平野五校園の特色をいかした研究を推進する。 ・SGHと関連づけた研究を中高で進める。
教育実習	教科担当教員とクラス担当教員の連携のもと、実習生個々への指導を充実させる。	・教科担当教員、クラス担当教員からの指導のほか、実習生間のミーティングによる指導を実施した。	・実習生の日常の授業や研究授業において、複数の教員が指導助言できるようにする。	B	特になし	A	実習生間のミーティングや研究授業等とおして複数の教員による指導を行う。
保護者への情報発信	学校での情報を WEB ページに掲載するとともに、配布物情報を保護者宛に掲載する。	WEB ページの「学校生活ブログ」や「配布物情報」には昨年度以上の件数の情報を掲載して情報提供を行った。	SGHに関する情報の他、日常的な情報も掲載する。 連絡メールシステムからの情報発信を有効に行う。	A	学校から保護者への情報提供をさらにきめ細かくしてほしい。	A	WEB ページ及び連絡メールシステムを有効に活用して適切に情報発信する。
中学校等への情報発信	中学生・教育関係者等に対する教育内容・入試情報の発信	学校説明会への参加者が増加した。校外での説明会や中学校等への訪問機会を増やした。	広報委員会を中心に情報提供を早期から実施する。	A	パンフレット等の配付資料の充実が必要である。	A	配付資料の整備を行う。広報委員会を中心に広報活動を計画的に行う。